

## 平成26年度 高山市政クラブ行政視察研修報告書

### 1. 視察期間

平成26年7月1日（火）

### 2. 視察先

北海道常呂郡置戸町

### 3. 視察項目

地域活性化と誘客対策事業

### 4. 視察目的

人間ばん馬の取り組み

### 5. 視察内容

#### ア、概要

今年で38回を迎える「人間ばん馬大会」は「おけと夏まつり」の中の1イベントとして行われている。「おけと夏まつり」は実行委員会方式で、置戸町長を実行委員長に迎え、人間ばん馬部会・前夜祭部会・本祭り部会（お祭り広場委員会、カラオケ大会委員会、旧車展委員会）等の部会、委員会で構成されている。

「山神祭・人間ばん馬大会」のはじまりは、商工会青年部の「置戸の歴史と特色を生かしたイベント」を行いたいという熱い思いから生まれた祭りであり「林業の町、置戸の歴史を知る、木材で栄えた置戸の姿を残す、開拓の心を取り戻す、馬と山仕事で置戸の町を作った」などをテーマに、昭和52年の第10回おけと夏まつりに「第1回バチ曳き合戦」を開催した。昭和56年の第5回大会より、「バチ曳き合戦」と名称を改め「人間ばん馬大会」として今日まで開催している。人間ばん馬大会は山祭と名乗っている通り、実際に山の神を奉り、毎年、鳥居を作成している。

- ・賞金・商品総額500万円

- ・優勝賞金

5人1組チームは、北海道知事賞および賞金50万円

7人1組チームは、賞金20万円など

#### イ、効果

今年の第38回では、69チーム580人が参加。観光客は約7,000人の人出。マスコミでも大きく報道されるなど、町のPRに役立っている。

また、ここ数年、自衛隊チームが優勝していたが、地元商工団体の若者が結束し、優勝するなど地域コミュニティーの活性化にも結びついている。

#### ウ、課題

少子高齢化が進む中、実行委員会の委員が減少し、将来は規模を縮小しなければならない局面を迎える。多くの企業体に協賛して頂いているが、予算に反映することが

少なくなってきた。しかし、町の活性化には継続することが大切であることを町民は認識している。

## 6. 考 察

人口3,700人の町でこれだけの事業が開催されることの素晴らしさに感動した。

組織体制も、リーダーを中心に部会としての役割を認識し取り組んでいる。予算規模からして、この程度の事はどこでも出来ると考えるが、大切なのはいかに人材を活かしているかである。わが町も協働のまちづくりが進められている。地域の主体性は大切であるが、いかに多くの市民の声を取り入れることができるかが一番のテーマである。

特に支所地域においての、地域審議会の反省を踏まえ、これまでの地域振興事業を無にすることなく進めてほしい。

# 平成26年度高山市政クラブ行政視察報告書

## 1. 視察期間

平成26年7月1日（火）

## 2. 視察先

北海道常呂郡置戸町

## 3. 視察項目

有害鳥獣の対策と食肉利用について

## 4. 視察目的

有害鳥獣の事態とその対策（エゾシカを中心とした食肉利用の研究について学ぶ）

## 5. 視察内容

### ア、概要

- ① 置戸町における野生鳥獣は主にエゾシカ、キツネ、ヒグマであり、それらによる農業、林業への被害が増加しており、地元猟友会の協力を得て有害鳥獣駆除を実施している。

特に、エゾシカの推定生息数は道内に59万頭で、その内置戸町のある東部地区は約23万頭の生息数といわれている。

鳥獣による被害額は、平成24年度データで69億8千万円。その内エゾシカによる被害は農業で60億5千万円、林業で2億4千万円と深刻な状態である。

- ② 有害駆除対策のハード・ソフト事業は次のとおりである。

#### ◎ハード事業

- ・鹿防護柵設置

平成16年度～平成18年度（道営事業）

平成23年度 鳥獣被害防止対策事業（協議会）

総設置延長：129.2km 総事業費：770,760千円

#### ◎ソフト事業

##### ○町事業

- ・報奨費制度 エゾシカ 5,000円/頭 ヒグマ 30,000円/頭
- ・運搬費委託業務 3,456円/頭
- ・処分費委託業務 5,250円/頭

##### ○町鳥獣被害防止対策協議会事業（平成25年度～平成27年度）

- ・報償費エゾシカ、ヒグマともに 8,000円/頭

- ③ 平成25年度有害鳥獣捕獲実績及びエゾシカの捕獲数の推移

（エゾシカ有害駆除報償費等の実績は別紙のとおり）

- ④ エゾシカの食肉利用については、過去有志による研究グループでバーベキュー用食肉加工、ソーセージ等への加工等商品化に取り組んだが、食肉処理業の許可の問題、食肉製品製造業の許可の問題、安定した捕獲（供給）の問題等があり研究の枠

を脱していない。(商品化していない)

なお、他地区で実施している土壌菌を利用した処分については実施していない。

#### イ、効果

有害鳥獣駆除対策は、防護柵の設置も行っているが限界もあり、個体数の削減を目的に、若者による狩猟免許（猟銃）取得者の育成が急務となっている。置戸町においては、農林業者は当然のこと、役場職員、商工関係者にも狩猟免許の取得を促している状況である。

又、食肉加工については町単独では難しいことから、広域（道として）で検討する方向との事であった。

### 6. 考察

高山市の有害鳥獣は、イノシシ、日本シカ、サル、クマ等であるが、その生息数は年々増加傾向にあり、耕作放棄地の大半が鳥獣被害とその対策の遅れが原因となっている。高山市における有害鳥獣捕獲に関する報償金についてはトップクラスにあり、今後は猟友会の後継者（若者）育成のための抜本的対策が必要であると思われる。

現在は、ほとんどの捕獲鳥獣が現地処分となっているが、食肉加工の研究について関係者と協議し、地元での需要を喚起するなど有効利用を図る方策を調査研究したい。

## 平成26年度市政クラブ行政視察報告書

### 1. 日 時

平成26年7月1日（火）、2日（水）現地視察

### 1. 視 察 先

北海道常呂郡置戸町(置戸町役場・置戸ぽっぼ絵画館)

### 2. 視察目的

文化芸術の振興

### 3. 視察内容

置戸ぽっぼ絵画館設立の説明及び現地視察

### 5. 事業内容

読売新聞に掲載された『無名画家の作品寄贈の場をつくって欲しい』との投稿に触発され、住民が絵画館運営委員会を設立し、全国各地の画家や絵画愛好家の手元に眠ったままになっている作品を一堂に集めて展示する絵画館を、JRが廃線となり、その駅として利用されていた旧置戸駅舎を利用して平成24年10月に開館された。入場料は無料。

平成25年10月には『置戸ぽっぼ館』の開館1周年を記念して、画家木原和敏氏(広島)の講演と舞台女優山口昌代氏(茨城)の朗読がおこなわれた。木原氏は自らの作品3点を同館に寄贈し、『ぜひ置戸に訪れたい』と要望しており、講演では『絵画の話・あれこれ』と題し、寄贈した絵への思い入れなどを語られ参加者からの質問にも応答された。山口氏は志賀直哉の『転生』の朗読と、小泉八雲の人路芝居をされた。

### 6. 課題と評価

絵画を扱う美術館は窓のない、温度、湿度の調節できる施設が一般的だが、置戸町の施設はJRの旧駅舎を利用したもので窓があり温度、湿度調節ができない。しかし廃駅舎だと言われたので、古い建物だと想像していたが、美術館のような近代的な建物で、絵画館にピッタリの建物だった。

ここには100点ほどの作品が寄贈され、展示されているが、その中には15年以上連続して日展の特選、入選そして審査員も務める広島の画家、木原和敏氏の百号の作品もある、2年目の現在は、中央画壇で活躍されている画家、平澤重信氏の個展が開かれており、無名画家の作品だけでなく、有名な人の作品も多くあり、高く評価できるところである。

置戸町は最盛期には13,000人の人が住んでいたが今は3,200人となり、町を活性化する為に、全国にアピールして多くの人に置戸町に来てもらいたいと取り組まれた事業であり、その熱意は観光の町高山市としておおいに参考になった。ただし観光の経済面から考えると、この町には宿泊施設が少ない事が惜まれる。

高山市は平成25年、こだま一れとして文化芸術に力をいれてきた。また一之宮では合併以前から日本画大賞を実施しており、それらの有効な活用方法の参考としたい。

## 平成26年度 高山市政クラブ行政視察報告書

### 1. 視察日

平成26年7月3日（木）

### 2. 視察先

北海道網走市北浜203-3 濤沸湖（とうふつこ）水鳥・湿地センター

### 3. 視察項目

「ラムサール条約登録湿地」について

### 4. 視察の目的

環境学習、環境保全活動の内容

### 5. 視察内容

#### ア、概要

2005年にラムサール登録湿地となりオオハクチョウ等の渡り鳥の重要な中継地で国指定濤沸湖鳥獣保護区でもあり網走国定公園にも指定されている。野鳥・植物の観察に多くの来訪者がいる。設置主体は環境省で管理主体は網走市となっている。

① 平成24年5月にオープンした濤沸湖水鳥・湿地センターは、年間5万人を目標としたが、平成24年度は17,000人、平成25年度は22,000人となっている。

ラムサール条約の理念にもとづき環境学習、環境保全活動の拠点施設を目指している。

② 施設概要は、敷地面積 約6,092㎡、建築面積 約596㎡、木造平屋建て（ヒートポンプ冷暖房設備、太陽光発電設備）、駐車場 大型5台、普通車20台、工事費 約3億1800万円。開館時間 9:00～17:00  
休館日 月曜日（祝日の場合は、その翌日）と12月31日～1月5日。  
入館料 無料

③ 自然環境や生物の情報と、濤沸湖とともに暮らしてきた地域の方の関わりを展示紹介。レクチャー室は講演・会議に使用し、映像「濤沸湖生命のゆりかご」を放映。

ボランティア室はボランティアの方々の打ち合わせやセンター運営、各種調査の活動拠点となる。他に、資料展示室、書籍室、インフォメーションカウンター等を設置。市職員3人で対応し、関係団体で「濤沸湖水鳥・湿地センター運営委員会」を設置し維持管理を進めている。自然環境資源の把握、旬の自然情報、地域の漁業・農業・観光情報の発信やサポーターの育成事業に取り組む。

イ、効果 サポーターやボランティア・ガイド等に多くの市民等の参加がある。特に認定ガイド育成には、50名が参加し、講習会等おこなっている。濤沸湖の保全と利用について「濤沸湖エコツーリズム推進協議会」を網走市と小清水町等で立ち上げルールを決め、平成26年11月から運用開始とし認定ガイドについては10月に講習会を開催予定。

## 6. 考 察

山と湿地の差はあるが、環境保全を守る為に、外来植物の駆除や漁業の自主的制限・清掃活動、環境型農業等に努めている。高山市の環境保全には、これらの取組が必要と考える。

## 平成26年度 高山市政クラブ行政視察報告書

### 1. 視察期間

平成26年7月3日（木）

### 2. 視察先

網走市 濤沸湖（とうふつこ）水鳥・湿地センター

### 3. 視察目的

自然環境の保護と誘客について

### 4. 視察内容

#### ア 視察概要 （濤沸湖の保護について）

濤沸湖は、海岸草原と湿地に囲まれ、海水と淡水が入り交わった汽水湖で水鳥や彩りの花々をはじめ多種多様な生物が生息し、国内有数の渡り鳥の中継地として重要な役割を果たしていることから、国指定鳥獣保護区及びラサール条約登録湿地となっております。

当地は、道東地域における観光ポテンシャルの高い地域で、国内外からの旅行者の増加も見込まれるため、自然の営みを無視した利用が多くなると、自然環境が劣化し、濤沸湖の魅力は低下することや、漁業や農業、地域の方々とも調整が図れなくなることを防止することを目的に、地域の様々な分野の方がワークショップや検討会を通じて意見を交換して「濤沸湖保全と利用のためのルール」を作られて、環境保全を行っている。

#### 濤沸湖保全と利用のためのルール

「濤沸湖保全と利用のためのルール」は、すばらしい自然を未来に残すとともに、漁業や農業等によりワイズユース（賢明な利用）を実践してきた方々と、観光利用する方々との望ましい共存を目的としている。

○湖岸部分の立ち入りは「濤沸湖認定ガイド」同伴を！

「湿原・樹林エリア」は、様々な動物の繁殖場所で、希少植物も生育している。なかでも「重点保全エリア」は特に重要で、通年保全を図るべき場所であり、利用者は悪影響を与える場所や時期を熟知した「濤沸湖認定ガイド」※の同伴が必要である。

※「濤沸湖認定ガイド」とは、「濤沸湖保全と利用のためのルール」の趣旨を理解し、濤沸湖の自然環境の知識を有する者で、「濤沸湖エコツーリズム推進協議会」が認定する。

○ボートやカヌーを持ち込まない！

湖岸の野鳥の繁殖状況などの調査が不十分であることや、濤沸湖が明治時代から漁場として利用されていることに配慮し、結氷期以外の湖面の利用は止めている。

#### 濤沸湖エコツーリズム推進協議会

濤沸湖エコツーリズム推進協議会は、地域住民、水産業や農業、観光業など各種産業に従事している方、地域の生きものに精通した専門家などで構成され、網走市及小清水町が事務局となって運営している。

『濤沸湖 保全と利用のためのルール』の管理運営をするとともに、濤沸湖のエコツー



リズムを広く普及していくための継続的な取り組みを推進しており、また、地域の方々や利用者等の意見を取り込みつつ、定期的にルールの見直しを行っている。

## イ 視察概要 誘客（観光）について

国は観光立国日本として海外からの観光客を2000万人見込んでいる、そのうち北海道全域で、100万人を見込んでいる。

網走市の観光は、北海道全体として巻き込んでいく計画である。一地域だけでは観光誘客は難しいので、地域全体で取り組み効果を上げたいとの方針である

### ○「通年型観光」

「流水と環境」をテーマにした網走観光PRの大規模キャンペーンによる経済の活性化を推進している。農水産物に高付加価値をつけてのブランド化、特産品づくり、モノづくり企業への新製品開発からPRに至るまで一貫した支援を行っている。また、オホーツク海沿岸で栄華を誇った北からの渡来文化オホーツク文化の壮大なミステリアスロマンも魅力のひとつである。

### ○「景観の形成・維持」

オホーツク海に面し北海道北東部の網走国定公園の中心に位置しており、市内にはラムサール条約登録湿地の濤沸湖（とうふっこ）など大小5つの湖がある。起伏と変化に富んだ景観を形成している。阿寒、知床の両国立公園にも隣接した豊富な自然が魅力であり、冬期間は流水が代表される。

## 5. 考察

平成24年度建設された、濤沸湖水鳥・湿地センターの想定年間利用者は55千人を想定していたが、平成24年度は17千人、平成25年度は22千人となっており、当初の想定人数を下回っている。課題は近くに有名な阿寒・知床の両国立公園があるために通過形観光地になっている。

今後、網走市の博物館網走監獄を始めとする7つの施設と回遊して湿地センターの来客数の増加を考えており、また 子どもの自然体験プログラムを促進して宿泊を伴う増客を考えている。

高山市の観光は年間宿泊数入込人数395万人。また、日帰り観光は196万人である。北陸新幹線の開業、道路交通網の整備により関東圏、金沢の北陸圏・関西圏からさらに近くなり、今後 通過型日帰り観光が増加すると思われる。

今後、自然と歴史文化の観る観光から 観光施設・自然環境施設を整備し回遊観光を目指して滞在型、通年型観光を推進し魅力の向上を図る必要があると考える。